

## 一般社団法人日本トイレ協会 2019年度総会報告

司 会 中森秀二運営委員

日 時 2019年5月18日(土)13:30~15:00

会 場 株式会社ソフト99コーポレーション東京支社 会議室

出席者 127名(うち議決権124個 出席44名+委任状80名)

※ 議決権総数は5/18現在 197個であり、定足数の50%を満たし総会は成立

議 長 山本耕平副会長

会長挨拶 高橋志保彦会長

法人化して3年目となり、みなさまの努力によって大変活発な活動と成果を得られた1年でした。「総務」「企画・運営」「広報・渉外」「事業」の四つの部会が始動し、HPもリニューアルし、より多くみなさまに活用していただけるようになりました。研究会も積極的に活動し、海外での講演などの国際協力や、全国トイレシンポジウムの開催など大変充実しておりました。

来年2020年には東京オリンピック・パラリンピックを控えておりますが、その先も見据え、これからも我が国のより優れたトイレ環境創造を構築し、世界に発信していきたいと考えております。

### 1 第1号議案 2018年活動報告

総括

第34回全国トイレシンポジウム

グッドトイレ選奨

問い合わせ状況

ホームページ活動

グッドトイレ推進運動

トイレ文化研究会

ノーマライゼーション研究会

メンテナンス研究会

以上を満場一致にて承認した。

高橋会長

寅事務局長

寅事務局長

寅事務局長

山戸運営委員

山本副会長

永島運営委員

寅事務局長

中森運営委員





## 2 第2号議案 2018年度 収支報告及び監査報告

- ① 収支報告 寅事務局長  
2019年3月31日現在の繰越残高  
¥5,410,582 を満場一致で承認した。
- ② 収支処理案 高橋会長  
当期末収支残高 ¥5,410,582 を  
次期繰越金として処理する提案に対して  
満場一致で承認した。
- ③ 監査報告 松田監事  
適法かつ正確であることを認めた旨、  
報告があり、満場一致で承認した。

## 3 第3号議案 2019年度 活動計画(案)

総括	高橋会長
ホームページ活動	山戸運営委員
第35回全国トイレシンポジウム	寅事務局長
グッドトイレ推進運動	山本副会長
トイレ文化研究会	永島運営委員
ノーマライゼーション研究会	寅事務局長
メンテナンス研究会	中森運営委員

以上を満場一致で承認した。

## 4 第4号議案 2019年度 収支予算(案)

収支予算案 寅事務局長  
収入見込み ¥6,630,000  
支出見込み ¥6,790,000  
△¥160,000 は繰越金 ¥5,410,582 より  
消化する。

以上を満場一致で承認した。



## 5 第5号議案 理事定員に関する定款の一部改定について(案)

高橋会長より、協会運営の必要性から理事定員を3名から5名に改定する提案があり、満場一致で承認した。

## 6 第6号議案 理事、運営委員の選任他

### ① 理事の選任

2019年4月16日の理事会において、小林純子副会長が理事に推挙された旨、報告があり満場一致で承認した。なお、小林氏は就任を承諾された。

② 運営委員の選任報告

木内雄二運営委員と寅太郎運営委員が一身上のご都合により退任されたため、2019年4月8日の運営委員会において、永島史朗氏と石井寿一氏が新運営委員に選任された旨、報告があった。退任運営委員(木内氏のご欠席)及び新運営委員よりご挨拶を頂いた。

③ 事務局長交代の報告

佐竹事務局長が、一身上の都合により退任され、後任として寅太郎氏が就任される旨、報告があった。

長年にわたり協会の運営にご尽力頂き退任された、木内氏、寅氏、佐竹氏に高橋会長より感謝状の贈呈がされた。(木内氏のご欠席のため後任の永島新運営委員に代理をお願いした)贈呈後、佐竹氏、寅新事務局長よりご挨拶を頂いた。



佐竹明雄氏



寅太郎氏

14時45分 審議が終了し、山本議長が解任された。

◆ 新法人会員の紹介

昨年の総会以降に新しく入会された新法人会員をご紹介し、ご挨拶を頂いた。

株式会社ユーホーニイタカ

森本 健嗣 様

株式会社リンレイ

八木 孝之介 様

株式会社クラシアン

上條 英二 様(ご欠席)

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株式会社

戎家 隆 様

14時55分 2019年度総会は、終了した。



森本健嗣氏



八木孝之介氏



戎家隆氏

講演会 15時～17時

テーマ

「世界のトイレ活動から SDGs の達成を目指す」



講演1「すべての人に清潔な水と衛生環境(トイレ)を届けるために

～NGOの活動～」

高橋 郁(かおる)氏

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン 事務局長

\*ウォーターエイドは、1981年にイギリスで設立された、水・衛生専門の国際NGOです。1991年にはイギリスのウェールズ公が会長に就任。2019年現在、アジア、アフリカ、中南米など34か国で水・衛生プロジェクトを実施しています。各国の貧しい人たちが取り残されがちな人々が清潔な水を利用できるよう、専門性を生かし、現地に適した方法を見つけ出して解決を図っています。2019年には120万人の人々に清潔な水を届け、人々が、自分たちで生活を変えていく支えとなることを目指しています。

※ 講演要旨は後出。



講演2 「世界トイレ協会の活動に参加して」

白倉正子氏

アントイレプランナー代表

(一社)日本トイレ協会運営委員

世界トイレ協会会員

※ 講演要旨は後出。



## 交流会 17時～18時30分

司会 寅事務局長

参加者 24名

総会、講演会終了後に、隣の会場にて交流会が開催されました。松田監事のご挨拶、再遠隔地よりご出席のウォレットジャパン株式会社 岡田貴幸氏の乾杯で始まった交流会は、広いテラスを臨むガラス張りの会場で、会員同士が親睦を深めトイレについて語り合う場となりました。

参加された会員のみなさま、会場を提供してくださった株式会社ソフト99コーポレーションのみなさま、ご協力ありがとうございました。



松田監事



佐竹明雄氏と岡田貴幸氏



講演者のお二人  
白倉正子氏と高橋郁氏



## 講演1要旨

### すべての人に清潔な水と衛生環境（トイレ）を届けるために ～NGOの活動～

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン 事務局長 高橋 郁

これはインドで撮影された写真です。この女性は何をしているのでしょうか。この女性はインドの都市部にあるスラムに住むラーダさん。このスラムには、トイレが1つもないので、スラムの住民は、線路を超えたところにある草むらに排泄に行っています。その草むらは、住民みんなが排泄場所として使っているので、悪臭があり不衛生です。



©WaterAid

ラーダさんは、いつも草むらに行ったあと、体を洗っています。その草むらには、他の住民がいることもあります。ラーダさんは、トイレに頻繁にいけないので、なるべく食べないようにしています。食べないこと、トイレに行かないようにすることに慣れてきて今は1日1回しかトイレに行っていないです。

ラーダさんの娘、15歳のニーシャさんは、その草むらでとても危険な目にあいました。6か月前、茂みに男性が隠れていて、ニーシャさんは襲われました。その男性は酔っぼらっていたので、ニーシャさんは大声で叫んで何とか逃げることができました。それ以降、ラーダさんは、ニーシャさんにも、なるべく食べないようにしてトイレに行く回数を減らすよう促しています。

エチオピアの高校に通うロマンさんとクミエさんの写真です。クミエさんが通っていた小学校には、トイレがありませんでした。クミエさんはある日の下校時、年上のクラスメートの女の子のスカートが汚れていることに気がつきました。月経を知らなかったクミンさんと他のクラスメートはその女の子をからかい続けました。その女の子はその日以来学校に来なくなり、その後、結婚して村を出ていった、とクミエさんは聞きました。やがて、その小学校にはトイレができたので、クミエさんは安心して学校に行くことができました。今自分が高校で勉強できているのは、トイレのおかげだと思っています。一方、その女の子は小学校をやめたしまった、自分のせいで彼女の将来を変えてしまったことをとても後悔しています。



©WaterAid/ Behailu Shiferaw

世界では、このようにトイレの問題を抱えている人が多くいます。トイレとつながりの深い水の数字から紹介すると、世界では、清潔な水を得ることができない人々が 7 億 8500 万人います。ちなみにこの数字、2015 年は 6 億 6500 万人だったのですが、なぜ増えたのでしょうか。理由はあとでご説明します。

世界では、適切なトイレを使うことができない人々が 20 億人います。この写真はウガンダの首都カンパラのスラムのトイレです。約 4000 人が住むこのスラムにあるのは、このトイレだけ。数も足りず、清潔ではないので、人々は野外排泄するしかありません。雨期にまとまった雨が降ると、排水設備も整っていないこのスラムでは、付近が水没し、排泄物があちこちに広まることになり、ひいてはコレラなどの病気が蔓延します。



©WaterAid/ Benedicte Desrus

2015 年、このような水とトイレの問題を含む、世界の様々な問題の解決を目指して、国連で「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」が制定されました。これには 17 の「目標」があり、このうちの 1 つである「目標 6」が、「安全な水とトイレを世界中に」です。ではこの「安全な水」「適切なトイレ」というのはどういったものでしょうか。目標 6 は、世界保健機関(WHO)とユニセフが定期的に進捗状況を調査しており、そこで出された基準があります。「清潔な水を利用できる人」(basic access to clean water)は、雨水タンクや掘削井戸など、清潔な水を供給することができる給水設備を往復 30 分以内で利用することができる人を指します。この「往復 30 分以内」というのは、SDG 以降に新たに加わった基準で、以前は、何分かけても清潔な水を供給することができる給水設備を使うことができれば、「清潔な水を利用できる人」にカウントされていました。この「往復 30 分以内」という基準が新たに加わったため、先ほどご紹介したように、「清潔な水を利用できる人」の数が減少したのです。

なお、SDGs ではさらに「安全に管理された水を利用できる人」(safely managed water)という基準があり、これは、家庭内で清潔な水を必要なときにいつでも利用できる、という人を指します。

トイレの基準を見てみると、排泄物が人間の接触から切り離されているトイレが、SDGs でいうところの「適切なトイレ」になり、例えばスラブ付ピット式トイレ、改良型換気トイレ、コンポスティングトイレ、水洗トイレなどがそれにあたります。

前述のとおり、SDGs のなかで水とトイレに最もつながりがあるのは「目標 6」ですが、実は他の「目標」にも水とトイレは大きく関連しています。例えば「目標 3」の「すべての人に健康と福祉を」。サハラ以南のアフリカでは、4 分の 1 の医療施設(23%)にしか適切なトイレがなく、人々が安心して医療施設に行くことができない、医療施設内で病気が流行ってしまう、という問題が起きています。

「目標 4」は、「質の高い教育をみんなに」ですが、世界では、6 億 2000 万人が、適切なトイレのない学校に通っています。学校にトイレがなければ、特に思春期の女の子たちは学校を休みがちになったり、先生がなかなか来てくれない、といった問題が生じます。「目標 2」は飢餓や栄養に関する目標ですが、不衛生な水とトイレが原因で、下痢が続けば、栄養をきちんと吸収することができません。

このように水とトイレは、SDGs の様々な目標とつながっている、もっと言うと、開発途上国の様々な課題につながっていることから、ウォーターエイドは、水・トイレに特化して活動しています。

ウォーターエイドは、水、トイレ、手洗い等の衛生習慣の 3 本柱で活動しています。給水設備を設置するには、現地の気候、地形、社会、文化等に適した技術を選び、現地の NGO、コミュニティの人々と一緒に設置していきます。トイレについては、こちらがトイレを設置するのではなく、まず、住民の皆さんが、「トイレがほしい」「トイレを使いたい」「野外排泄をやめたい」という思いに至るようなワークショップを実施。住民が主体的にトイレを作っていくことを目指します。また、開発途上国の貧困層の 5 人に 1 人は障害者である、ということから、障害者がいる家庭やコミュニティでは、誰もが使えるトイレを設置するようにしています。

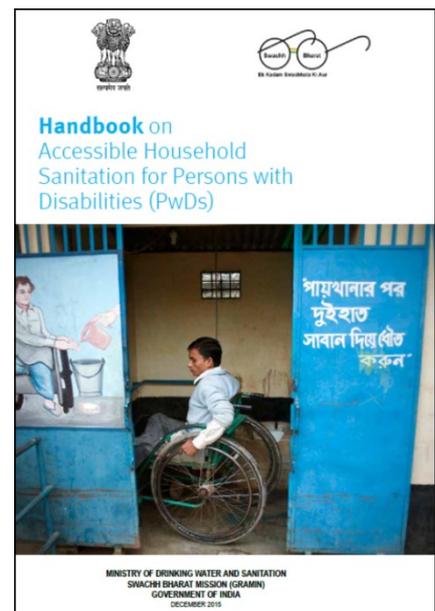
さて、先ほどお話した SDGs ですが、実はこのままのペースでは、2030 年までに水とトイレの目標数値は達成できないことが予想されています。そこでウォーターエイドは、その地域で、「すべての人が水とトイレを」を阻害する要因は何なのか、しっかり深くまで分析し、その根っこの要因を取り除くプロジェクトを設計・実施しています。

SDGs が掲げるのが「誰も取り残さない」というメッセージです。現在、世界で清潔な水、適切なトイレを使うことができない人々のなかには、障害がある、スラムに住んでいる、民族などを理由に差別を受けている、こういった理由で清潔な水とトイレを使うという権利を阻まれている人々が多くいます。

ウォーターエイドは、障害を持つ人々も安心して給水設備・トイレを利用できることを目指し、障害者が利用可能な設備の設置を進めるとともに、その経験を活かし、障害者が利用可能な設備のガイドラインを策定、政府に提案しています。

例えばインドでは、ウォーターエイドが作成した「障害者のための家庭内衛生設備ハンドブック(Handbook on Accessible Household Sanitation for Persons with Disabilities)」をウツタル・プラデシュ州政府が採用。同州の 75 県において配布され、政府職員、水・衛生技術者、村落自治体などが利用することになりました。

数年前、ウォーターエイドは、開発途上国のトイレに取り組む国連機関や NGO、大学・研究機関を対象に、



なぜトイレの普及は進んでこなかったのかを検証するためのヒヤリングを行いました。そのなかで出てきた回答の1つが「現場で活動する団体の間でも政治家の間でも優先度が低い」ということでした。さらにそれを紐解くと、トイレについて話すことがタブー、個人的な課題と認識されがち、トイレに取り組むことは費用対効果が少ないと思われる、担当する行政・省庁が不明確、予算が少ない、といった課題が浮かび上がりました。また、トイレの普及に関わる組織間の連携・協調が十分ではない、設備を作ることにのみ注力し行動変容への働きかけが不十分、といった課題もあげられました。

しかし、SDGsの時代に入り、世界のトイレへの取り組みは変わってきています。例えば、インドでは、モディ首相がトイレを政治的な優先課題としたところ、驚くほどのスピードでトイレを利用できる人口が増えています。

「設備を作ることにのみ注力し、行動変容への働きかけ不十分」という点に対しては、人々が「トイレを使いたい」と思うようなマーケティングを実施、かつ人々が「トイレを使いたい」と思ったときに、その地域で、魅力的なトイレが手頃な価格で入手できるよう、トイレの流通網を構築する、という取り組みが各国で進んでいます。

(非会員)

## 山本耕平副会長が本を出版されました

公共トイレ、まちづくりとトイレ、学校のトイレ、災害時のトイレ、そして維持管理の課題など、自治体のトイレ政策はどうあるべきか、どのようにアプローチしていくべきか山本氏がわかり易く解説、提案されています。

トイレがつくるユニバーサルなまち  
自治体の「トイレ政策」を考える  
イマジン出版 ¥1,200 + 税



## 「世界トイレ協会（WTA）の活動に参加して」

アントイレプランナー 代表 白倉正子

### ■ 自己紹介ときっかけ

私は、大学時代に環境問題に取り組むサークルの仲間から「世界中にはトイレが無い国があったり、不衛生さがきっかけで死んでいる人が大勢いるんだよ」と教えてもらったことがきっかけで、世界のトイレ問題に関心を持ち始めました。なぜならトイレに行かない人は一人もいないのに、それが死を招くなんて、あってはならないことだと憤慨したからです。そこで海外のトイレ改善に貢献をできる日が来ることを願いながら、日々活動していました。

そして20年以上が経過したある時、韓国の水原(スウォン)市にあるトイレ博物館「解憂斎(ヘウジェ)」に行く機会を得ました。その建物のそばに、世界トイレ協会(以下:WTA)の事務局があることを知りました。そこで私も関わりたいと思い、2018年秋に正式に入会をしました。(個人会員/日本人女性初)。



韓国のトイレ博物館。便器の形をしている建物がシンボル。向かいにWTAの事務局がある。

### ■ 世界のトイレ事情とトイレ活動の流れ

トイレの世界で、1990年代に国際的に活動の活性化をリードしてきたのは、日本トイレ協会です。世界で最初に「トイレ協会」を作り、国際シンポジウムの開催の呼びかけを行うなど、活発に貢献したからです。

その結果、世界規模のトイレ団体が2つ誕生しました。1つ目は2001年にシンガポールで発足した世界トイレ機構(World Toilet Organization=WTO)です。2つ目は2007年に韓国で誕生した世界トイレ協会(World Toilet Association=WTA)です。

WTAは設立当初から、国際的なトイレ支援を主たる目的にしており、実際にトイレが少ない国に公衆トイレを建築するなど、具体的な支援活動をしていることが、私の目標と一致していました。

世界では、トイレが無い場所がまだ多く、特にアジアとアフリカ地域で屋外排泄(いわゆる野糞)をする習慣が多く残っております。下水道の設備も不十分です。なので、トイレに行くために30分以上歩いて郊外に行くことも珍しくなく、飲食を我慢する人も少なくありません。また女性は月経になると「汚らわしい存在」として扱われ、学校に通えず、不潔な古布を股間にあてるために不妊症になってしまう人もいます。しかも女性が排泄をするために出掛けた先で、男性より性的暴行を受けることも、よくあるのです。これらを受け、中国やインドでは、国家元首が自らトイレ改善を訴え、巨額の予算を付けるほど、問題意識が高まりました。



世界トイレ協会(WTA)のシンボルマーク。会員になると、この印の胸バッチをいただきました。

## ■ 「持続可能な開発目標 (SDGs)」に含まれたトイレ関連項目の意義

これらの活動が広く認識されるようになった要因の一つに、2013年から始まった「世界トイレの日(11月19日)」の制定が挙げられるでしょう。

そして、2015年に国連が発表した「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals=頭文字を取ってSDGs=エス・ディー・ジーズと読みます)」の存在も大きいと言えます。このSDGsは、2030年を目標に17項目の具体的な課題が掲げられており、その6番目に「安全な水とトイレを世界中に」と明確に示されています。トイレは不衛生かつ、大規模な設備を伴うために、着手されにくかったため、大変意義深いことです。例えばせつかく飲み水を確保しても、排泄物がその環境を汚染してしまえば、元も子もありません。だからトイレ環境を整備することやその意識を高めることは、急務なのです。



## ■ 世界トイレ協会の活動に参加して

私が世界トイレ協会の活動に参加をすることになったきっかけは、日本人の池原衛さんという男性の存在がありました。この方は日本と韓国の両国のトイレ交流に、大きく貢献してくださっており、2002年に開催された日韓共催のワールドカップの時に、両国の橋渡し役として大活躍された方です。

私はその池原さんの紹介で、世界トイレ協会への一歩に踏み出しました。この活動のために海外へ行ったのは、現在(2019年6月末)までに4回です。ここではそれぞれを短めに報告します。

(編集部注釈:④は5月18日の日本トイレ協会の総会で講演の後に行った分です)

### ①2017年11月20日～23日〈韓国・水原市〉第4回会員総会およびコンベンションに参加)

WTAのプログラムは、概ね4日間あります。だから移動等もあり概ね1週間もかかります。WTAに加盟している国は、個人・国家レベルを含めて(当時は)21か国あり、その中で4日間のプログラムに参加していたのは、13か国でした。メイン言語は英語で、私は日本語の分かる韓国人スタッフに助けられました。

メインは3日目で、大きな会場で、世界トイレ協会の会長でもある、水原市のヨン・テヨン市長が登場し、WTA創設者の故人:シム・ジェトク氏(元水原市長)の労苦を労う映像等が紹介され、コンベンションの開会宣言がされました。

その後は、8人にも及ぶ講演が行われました。私が特に印象的だったのは、ウンチをお金(経済活動)に変えるまちづくりを、実験的に行っている大学の発表でした。トイレの個室の確保や便器本体の開発だけではなく、その国の体制や国民生活に合う、水や排泄物を総合的に考えるインフラ整備が必要だと学びました。



夕方からは、会員総会が開催され、私は(まだ非会員でしたが)オブザーバー参加しました。総会では、予算やトイレ支援先(この時には3か所の公衆トイレを建設)の決定等の審議が行われ、その後、役員編成が発表され、いろいろな国の人理事を務めておりました。

4日目は下水処理場や韓国トイレ博物館を見学し、4日間のプログラムは閉会しました。

全体的に感じたことは、韓国は国家戦略として国内外のトイレ改善に本気で取り組んでいることです。日本も国家レベルでトイレの活動が出来ればいいのになあ…と思いました。

## ②2018年7月3～6日〈韓国・水原市〉第5回リーダーフォーラムへ

WTAの活動は、勉強を目的としたプログラムもあります。1日目は座学(講演を聞く)で、節水型の便器の開発の話や、コンポスト式トイレの話、韓国の公衆トイレの管理体制などについて、話を伺いました。内容的には日本が持っている技術と類する部分もありましたが、こうした情報を無料で惜しみなく公開してくれる韓国の姿勢は、素晴らしいと思いました。

2日目はフィールドワーク(バスツアー)でした。最初は洗浄水量が2.5ℓの洋式便器を開発している会社を訪問。日本の4ℓ位の節水便器より、少ない水量なので、驚きました。次に、同じく便器の会社で、デザイン性に優れた便器の会社 Inter Bath 社を訪問。まるで「トイレの美術館」と言わんばかりに、花や音符の絵が描いてある便器をたくさん見ました。

夜は、電気屋さんで温水洗浄便座(現地では「シートトイレ」と呼ぶ)の売り場を、個人的に見に行きました。残念ながら日本のメーカー品はありませんでした。あと別のショッピングセンターには、クッション素材でできたカラフルな便座(交換用)がたくさん売っていました。

3日目はバスで、水資源センターや、水浄化センターを訪問しました。いずれも、市民(特に小さな子供)が楽しめるようになっていました。



従来の12ℓ便器と、2.5ℓの節水便器を比較している様子(私は左側の便器の背面にいます)

## ③2018年11月19～23日〈南アフリカ共和国・ケープタウン〉第5回会員総会他

今回は、人生初のアフリカ大陸へ一人で行きました。空港に着くなり、「水不足」を訴える看板が目立ちました。なぜなら他国から難民の移住が急増したからです。彼らはタウンシップと呼ばれるバラック小屋に住んでいて、トイレも快適とは言えませんでした。

開催1日目は観光で、最南端の喜望峰に行きました。2日目は開会式と基調講演。講演ではフィンランドの専門家による発表があり、大便と小便を別々に回収してリサイクルする家屋の事例等が発表されました。その後は応募者による研究発表の時間で、いろいろな国の人に取り組んでいるトイレ支援の話が発表されました。

私にとって印象的だったのは、下水道の完備が不十分で、まだまだ開発の余地があるのに、政府の意識が低いと憤慨しているアフリカの若者の発表でした。トイレのことが国家レベルで



大便と小便を分けて回収できるトイレの展示。穴が前後に2つ空いているのが特徴。

まともに対策を取られるには、時間がかかるのだと再認識しました。身分差別によるトイレ環境の違いや、女性のトイレ危機に対する深刻な訴えなどもあり、心が苦しくなりました。

#### ④2019年6月11～14日〈韓国・水原市〉第6回リーダーフォーラムへ

このフォーラムではトピックが2つありました。

1つは「水原市第1回国際下水道&トイレ展」が開催されたことです。これは日本で開催されている「下水道展」と「トイレ産業展」を合わせて開催しているようなものでした。

2つ目は参加国の有志による10分間のスピーチ時間が提供されたことでした。私は「日本トイレ協会事情および国際トイレ支援活動について」を発表。日本では海外国際協力機構 JICA による資金援助が9年間で100億ドルを超えており(これは世界最高額)、トップドナーであることであることや、世界有数のトイレ技術があることをPRしました。



「水原市国際下水道&トイレ展」の様子。会場にはたくさんの新技術が紹介されていました。

## ■ 日本人の私達ができること、私がしていること

この活動に参加し、有意義な経験ができました。しかし自分自身では何も支援できておらず、無力さ感じずにはられませんでした。そこでトイレ・アクセサリを売って、トイレのイメージを変えることや、その売上げの一部をトイレ支援活動に寄付することを思い付きました。

これは私の夫が作ってくれた物なのですが、みんなから「面白い」「欲しい」と言われたからです。目標は1000個売り、その売上げで海外にトイレを作ることです。

なお、日本のみなさんにも、ぜひ世界のトイレ問題に目を向け、理解者および協力者になってほしいと思っています。ぜひ、みなさんの持っている技術や商品を、(いきなりは通用しませんが)世界の人々のために活用できる手段を見つけてほしいと願うのです。どうか一緒に世界のトイレ問題を解決しましょう。

もし世界トイレ協会の活動に参加したい方がいたら、私まで個人的にご連絡ください。



トイレ・ピアス。根付やネックレスもあります。この売上金で、トイレ支援の寄付を行う予定です。

★白倉正子の連絡先：[info@entoiletplanner.com](mailto:info@entoiletplanner.com)

★トイレ・アクセサリを購入して下さる方は、こちらをご覧ください。 <https://japanese-stuff.com>

## ■ 筆者紹介

白倉正子／アントイレプランナー代表／(一社)日本トイレ協会運営委員／世界トイレ協会会員

(個人会員)

## 新運営委員の紹介

### 永島 史朗（TOTO株式会社 渉外部 担当課長）



#### ■自己紹介

この度、日本トイレ協会の新運営委員を前任の木内より引き継ぎ、務めさせて頂くことになりましたTOTOの永島史朗(ふみお)です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本トイレ協会と当社との関係は大変深く、私は前任の木内と同様に、名誉会長の平田がTOTO在籍時に所属していました商品部の後輩にあたります。

入社以来、北は富山から南は鹿児島迄全国10拠店の現場で一貫してウォシュレットや節水トイレの普及活動を始め、快適なトイレ空間のご提案やご要望を承り、商品開発部門への改善要望やサービス向上活動を実施して参りました。

入社30年目の今年度から渉外部に転籍になり、皆様とのご縁を頂くことになりました。楽しみでワクワクしています。

#### ■私の夢！！日本のトイレは世界一綺麗で凄い！！日本の宝にしたい！！

私達日本人は日頃気づきませんが、訪日外国人の方々は口を揃えて「日本のトイレは世界一綺麗で凄い」と言われます。日本トイレ協会を始めとした先人の方々の努力と知恵の結晶によるウォシュレットを始めとする世界最先端技術のトイレ機器の普及活動と管理者の方々のおもてなしの清掃の徹底が外国人に日本の長所とまで言わしめる文化を築かれたものと考えます。このような世界一清潔なトイレ文化を日本の大きな強みとして、来る2020年東京オリンピックを大きな契機として諸外国に広めて、日本のトイレ文化を国際標準として世界の隅々迄普及させることが出来たら、どれだけ幸せかと思えます。

#### ■災害時のトイレ環境整備の重要性

2011年の東日本大震災を千葉の湾岸地域で公私共に経験し、建築物の倒壊やライフラインの停止、その後の計画停電、石油コンビナートの火災や有毒ガスの流出、液状化や津波の被害を目の当たりにしてきました。

政府は、今後30年以内に南海トラフ地震や首都直下地震が70%以上の高確率で起きると予想しており、「災害用トイレの事前整備及び備蓄」と言う喫緊の課題があります。

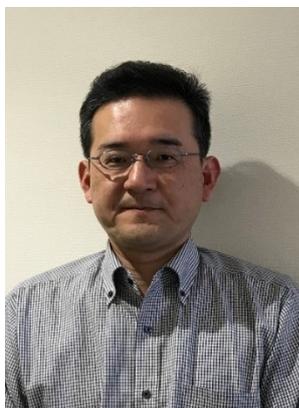
しかしながら、災害用トイレの備蓄率が全国的に非常に低いと言う大きな問題が明確になっています。

お役目を頂いていますトイレ文化研究会及び災害用トイレ特別研究会の活動において、防災・災害時のトイレの整備について、諸先輩方と手を取り合って全国の自治体への周知活動等を微力ながら社会貢献させていただくべく全力を尽くす所存です。

(法人会員)

## 新運営委員の紹介

### 石井 寿一（株式会社ハマネツ 市場開発グループ リーダー）



この度、日本トイレ協会の運営委員を務めさせて頂く事になりました、株式会社ハマネツ営業企画部 市場開発グループ リーダーの石井寿一です。日本トイレ協会には前任者から大変お世話になっており、この度、担当交代のタイミングで、運営委員への御推薦を賜り務めさせて頂くこととなりました。私なりに一生懸命、協会の為に頑張っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

#### ◆株式会社ハマネツの事業内容

弊社は昭和37年、静岡県浜松市に設立し今年で57年目となります。企業理念として「環境」「Only One」「変革と挑戦」の3つのこだわりを掲げ、全国に展開し屋外ユニット製品(常設トイレ、仮設トイレ、車載トイレ、災害用トイレ、風呂シャワー)や仮設資材、オゾン脱臭・除菌機器などを開発・製造・販売しています。近年では「快適トイレ」で「臭い・汚い・暗い」というイメージが定着していた、土木・建設現場の仮設トイレ環境を改善し、快適な職場づくりに努めています。また、屋外イベントでのトイレ環境を快適にする製品として、仮設トイレにIoT技術を融合させた商品「hint(ヒント)」を開発し、イベント時のトイレ渋滞、適正トイレ台数、空室状況などを利用者だけでなく、管理運営側にもメリットのある情報を提供し、新世代のトイレを追求し続けております。

#### ◆自己紹介

私は平成18年に入社し営業として関西、中国、四国地区を担当、その後大阪営業所で所長となり、営業一筋でほとんどが出張ばかりの日々を過ごしてきました。

昨年4月より初めて関東に異動となり、新設の営業企画部 市場開発グループ リーダーとして、東京の人の多さに圧倒されながら、新しい市場に向けての商品及び事業開発を追求しております。その業務の一つとして、先日タイを訪問して、現地の仮設トイレ事情を視察してきました。「百聞は一見に如かず」とはよく言ったもので、現地の悲惨な仮設トイレ状況を体験し衝撃を受けました。世界にはまだまだトイレ環境が悪い国があり、このような環境を改善する為に貢献できないだろうか日々考えております。

#### ◆今後の抱負

昔からトイレはあまり良いイメージを持たれていないのですが、人間にとって絶対欠かすことのできないものです。これから日本トイレ協会での活動に参加させて頂くことで、トイレについてさらに勉強し見聞を広め、日本だけでなく世界中のトイレ環境で困っている人々に、快適なトイレ環境を提供し、トイレの価値向上に貢献できるように努力していきたいと思っております。

(法人会員)

創立	1944年9月25日
本社所在地	東京都中央区銀座4-10-13
代表取締役社長	鈴木 信也
事業内容	業務用・家庭用・自動車用・工業用ワックス、洗剤など各種ケミカル製品の研究・開発・製造・販売・輸出、および、各種メンテナンス用機器の製造・販売、業務提携による清掃用機器の輸入販売
URL	<a href="https://www.rinrei.co.jp/">https://www.rinrei.co.jp/</a>

弊社は1944年に日本唯一のワックスメーカー「東日本特殊塗装剤工業株式会社」としてスタートし、1961年にリンレイブランドの浸透、定着を図るため社名を現在の「株式会社リンレイ」に変更しました。

企業理念である「快適な居住空間をクリエイトする」のもと、どんな環境でもいつも快適性を追求する企業でありたいと考えており、お客様の課題を解決するため製品やサービスの提案を行っています。

主力製品は「オール」などのワックスや洗剤ですが、トイレ用洗剤として業務用4品、家庭用1品を製造販売しております。

なお、2018年7月に新宿中央公園の2箇所のトイレを『日本のキレイ&TOKYO リンレイトイレ』として3年間のネーミングライツを取得しました。リンレイと多摩美術大学との産学共同研究プロジェクト「日本のキレイ」をテーマにトイレの外装・内装をRe:デザイン(※)したトイレで、「また訪れたくなるような、ワクワクするトイレ」を目指し、デザイン面・衛生面の両面から美観を保つことに努めています。



R'S PRO  
ディリー  
アクア



R'S PRO  
ディリー酸性  
トイレクリーン



ウルトラハード  
クリーナー  
トイレ用



水の広場トイレ外観



ちびっこ広場トイレ外観

※Re:デザイン… 日本のキレイをテーマに現在ある施設や建築物を再デザインすること

今年度から法人会員として入会いたしました「株式会社クラシアン」です。よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、弊社の概要や事業内容についてご紹介させていただきます。

#### ■会社概要

会社名:株式会社クラシアン

所在地:神奈川県横浜市港北区新横浜 1-2-1

新横浜ファーストビル 8 階

創業 :1991 年

資本金:1 億円(2019 年 3 月期実績)

従業員:1,072 人(2019 年 3 月現在)

代表取締役社長:鈴木一也

事業内容:水まわりの緊急メンテナンス/水道衛生設備工事/

給排水設備工事/住宅設備機器の販売・施工/

住まいのリフォーム 等



#### ■企業理念

「暮らしに安心を提供する」

水まわりの緊急ビジネスを通じて、困っている人のお役に立たせて頂くことが、私達クラシアン人としての最高の喜びであり、誇りでもあります。

#### ■事業内容

<緊急ビジネス事業>

24 時間受付・365 日対応で水まわりの緊急メンテナンスを行っております。日本全国に支社・営業所を配置し、すべての都道府県で、価格・品質ともに統一された質の高いサービスをご提供しています。

<法人事業>

アパート・マンション・ビルや飲食店等の排水管の定期清掃や漏水調査など、提携法人専用サービスを展開しております。緊急駆けつけ、設置工事、メンテナンス、定期販売等、提携法人様のご要望に応じたサービスや価格を実現するため、従来からの緊急対応経験を基に、予防メンテナンスやコスト削減対策等、提携法人様専用のサービスをご提案しています。

<リフォーム事業>

台所・洗面所・トイレを中心とした水まわりのリフォーム工事を行っております。和式トイレから洋式トイレへの改修工事、浴室ユニットバスや台所システムキッチンの設置、給湯器や浄水器の販売・取り付け・井戸ポンプの交換等、幅広く対応しています。

会員の皆様と交流・意見交換などを行い、トイレ業界の発展に努めて参ります。

何卒よろしくお願いいたします。

今年度から法人会員として入会いたしました「中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株式会社」です。どうぞよろしくお願い致します。

### 1. 経営理念

事業エリアである滋賀県の近江商人が唱えた『三方よし』を原典とした「お客さまよし、地域社会よし、そして会社よし」の精神のもと、NEXCO中日本グループの一員として経営理念を共有し、安全を何よりも優先し、安心・快適な高速道路空間を24時間365日お届けするとともに、高速道路ネットワークの効果を、次世代に繋がる新たな価値へ拡げることにより、地域の活性化と暮らしの向上、日本の社会・経済の成長、世界の持続可能な発展に貢献し続けます。

### 2. 主な業務内容

- ①高速道路の維持修繕業務
- ②各SA・PA施設の環境美化業務
- ③道路の維持管理に関する資機材の開発及び販売業務



とまるぞー

### 3. KSS活動の推進（休憩施設・すっきり・さわやかに）

お客さまに休憩施設で快適なひと時を過ごしていただくため、休憩施設をこまやかに清掃し、「お招き」と「おもてなし」の心でお客さまサービスの向上を図るKSS活動(休憩施設、すっきり、さわやか)に取り組んでおります。今後も日本トイレ協会様や会員の皆様と情報交換をおこない、より良いトイレ空間を提供できるよう努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

当社の取組の一部紹介します。

- ① 清掃スタッフの「意識の向上(清掃のレベルアップ・研修・指導・お客さまとのコミュニケーション)」を図る取組みとして、「トイレ診断・清掃研修」「接客研修」「介助研修」「リーダー研修」を全エリア対象に実施。【写真-1】
- ② トイレに地域特性を生かした飾付、飾り物を置き、お客さまに安らぎを感じて頂く。  
【写真-2】
- ③ 当社社長が年1回管内の全てのエリア(86箇所)を視察し、清掃スタッフと意見交換することによりエリアの環境改善に取り組んでいます。



【写真-1】



【写真-2】

## 私とトイレ（仕事というよりは趣味・楽しみな世界）

上梅澤建築設計事務所 代表 上梅澤保博

私がサラリーマンをやめ、建築設計事務所を開いたのは平成 15 年 3 月です。設計事務所を開いての最初の仕事が、今は富山市城川原に建っております身体障害者デイサービスとグループホームの複合施設「小さな幸せの家」の設計です。

「小さな幸せの家」というのは、高倉健主演の幸せの黄色いハンカチから発想して僕がつけた名です。この建物の設計の時に、5 つのトイレを盛り込みました。いろんなタイプのトイレをすることによって、多目的に機能が果たせるのではと考えた次第です。又、中国の易学からくる考え方に陰陽五行思想という考え方がありますが、火土金水木の 5 つのエネルギーで利用者がホッとできる空間を造れればという思いがどこかにあったような気がします。



10 年前ほどに、中国の伝統風水を学んだ時期がありました。風と水で構成される風水の言葉のとおり、風水では水のある場所は建物の中で取り扱いが肝要です。私の勉強したのは陽宅風水といって、人の暮らす建物の環境をよくするための伝統技術でした(死んだ人の暮らす家(墓)の風水は陰宅風水といい、時の為政者が用いた)。トイレの位置が家の中のどこにあるか、またそこが陰(暗くキタナイ空間でなく)にかたよらず、明るくよい環境で安心して過ごせるのは、人生において大きな要素のひとつだと感じます。

7 年ほど前の辰年に富山市の駅北で平屋の 2 世帯住宅を設計しました。風水の秘宝に竜を呼び込む(良き氣の流れを家の敷地に集める)と幸せが舞い込むという言い伝えがあります。家の中央に小さな中庭を設け、竜の水のみ場として設計をはじめましたが、親世帯に設けたトイレ(洗面所・脱衣所を兼ねる)が、もうひとつのキモとなり、基本設計の完成につながりました。今思えば陰陽の水のありかが決まり、場が安定したのかなと思っています。

私がトイレの設計に興味を持ち、日本トイレ協会を知ったのは、今から 31 年ほど前(1988 年)です。独立前に勤めていた会社で、東京の杉並区が区内の公園に(障害者にもお年寄りや子供・お母さんにも優しい)多目的なトイレを作らしようという事で、オリジナルなプレハブのトイレを設計し作らせて頂きました。2006 年に見に行ったときは、まだ使われていました。1400x1700 の内法有効寸法に苦勞して必要な機能を入れた記憶があります。

この時、日本トイレ協会の存在と、協会が発行したいろんな素敵なトイレの写真を見て、自由でかっこいいトイレの設計に憧れを抱きました。



私の入会申込みは平成 20 年(2008 年)6 月 27 日でしたので、11 年所属させて頂いています。活動に初めて参加したのは、入会した次の年です。2009 年 10 月 17 日、千葉県松戸で開催された川の駅・トイレ/ジョイントフォーラム 2009(第 25 回全国トイレシンポジウム)のトイレセッションの部で先に書きました身体障害者デイサービスとグループホームの複合施設「小さな幸せの家」での 5 つのトイレを 10 分ほど発表させて頂きました。実は、松戸の地には現場監督時代のトイレの管理で苦い思い出がありました。名古屋工業大学を卒業後、ゼネコンに就職して建築の現場監督をしていたのですが、松戸でビジネスホテル(ただしもっぱら男女のカップルで利用)のトイレのタイル割の施工図を担当いたしました。それが、いろんな形の浴槽と窓のあるトイレだったので、うまくタイル割ができずきれいにタイルが割れないまま出来上がり、現場 2 年目の手痛い記憶で残っておりました。その松戸の地で憧れの日本トイレ協会のシンポジウムがあるというので、せっかくなら思い切って発表者の一人として参加を決めました。そこでは、高橋会長をはじめ、みなさんに温かく接して頂き、よい時間を過ごせました。また、この時の高橋会長(当時は副会長)のイギリス紳士のようなユーモアあふれた話しぶりに(僕の個人的な感想ですが)共鳴を受けましたので、2012 年に(社)富山県建築士会建築士の日の事業「2012 トイレと街づくり」講演会で〈トイレについて「四方山」話・トイレと都市デザインについて〉という話をさせていただききっかけとつながりました。



トイレは、旅行にいくたび必ず見て回っております。

海外では、家族旅行で遊びに行った香港のホテルの綺麗なトイレが印象的でした。トイレというより、応接室のような空間で、中央のオブジェから水が泉のように湧き出して陽の空間を作りだしていました。

もうひとつ印象に残っているのは、スイスかドイツの国道沿いの休憩所のトイレです。1 つの便器で大小男女兼用です。女性が座って用を足すことも出来ますし、男性が立って小をすることも出来、更に用を足した後の手を洗う水も出てくるすぐれものです。庇を兼ねた大きな陸屋根の下に男女の別なくトイレのブースが並んでいました。



思えば、子供の頃住んでいた家ではトイレはくみ取り式のぼっこん便所で、夜には暗く怖い場所でした。それが、今はトイレの世界は仕事というよりは趣味の世界のような感じで、興味深く楽しく活動にも参加させて頂いております。太極図という陰陽思想を表した図がありますが、陰(暗く汚い思い出)は、いずれ陽(明るく楽しい思い出)に転化発展していきます。これからも富山の地より、ときどきですが活動に参加させて頂きますので、温かい目で見守って頂ければ幸いです。

(個人会員)

## 国際交流

6月に台湾衛浴文化協会(TTA)のみなさんが来日され、当協会役員が晩餐会にご招待いただきました。その際に、日本トイレ協会より TTA 黄理事長へ名誉会員証を贈呈し、また、軍記副会長へ TTA より名誉会員証が贈られました。(事務局)

## 台湾衛浴文化協会一行の来日

会長 高橋志保彦

台湾衛浴文化協会(台湾トイレ協会/TTA)の皆さんは、建築関係、不動産関係、大学関係者が多く、今回の訪日は福祉施設の視察が主目的で 22 名のご一行でした。私の友人で建築家の原田鎮郎さんが設計した栃木県にある介護老人ホームや、私の友人 K 氏が住む高島平高齢者用住宅の見学、TOTO の UD 総合研究所の視察でした。その機をとらえ、TTA の方との旧交を温め、新理事長の黄世孟氏に JTA から名誉会員証を贈り、軍記副会長に TTA から名誉会員証を賜るという晴れの舞台を設けました。



JTA を代表して 6 月 18 日午後 1 時半羽田に一行を出迎えました。

黄世孟理事長、沈英標名誉理事長、游明国名誉理事長、盧武雄秘書長はじめ 22 名の方々をお迎えし、宿泊先の川崎日航ホテルまで同行しました。

翌 19 日午後 6 時 30 分からの会食に、山本、小林、軍記各副会長、寅事務局長と私が参加し、両協会の親睦と意見交換をし、今後の益々の交流と両協会の発展を誓いました。



羽田到着の皆さん



黄理事長



盧秘書長と沈名誉理事長



游游名誉理事長

## 経済産業省こどもデー 出展報告

8月7日(水)、8日(木)に開催された「経済産業省こどもデー」に出展しました。このイベントは府省庁が連携して仕事への理解を深めてもらう「こども霞が関見学デー」の一環として経済産業省で開催されたものです。2日間で209人が当協会ブースを体験し、親御さんを含むたくさん的小朋友たちで賑わいました。

### 仮設トイレ組立体験コーナー



スタッフと一緒に工具を用いてパネルや便器の組立を行いました。多くのこどもたちが組立を楽しんでいました。

### 携帯トイレ実演・クイズコーナー



簡易トイレに携帯トイレをセッティングし、水を掛けて凝固する様子を確認しました。クイズコーナーでは、簡易トイレを椅子代わりに使用し、腰を掛けた状態でトイレにまつわるクイズを出題しました。正解数に合わせて 携帯洗浄器と携帯トイレをプレゼントしました。

## お知らせ

### ◆ 2019年度 第35回 全国トイレシンポジウムの概要が決まりました

テーマ 「公共交通のトイレの進化」

日時 2019年11月19日(火曜日) 9時半 開会

会場 文化シヤッターBXホール (東京都文京区西片1-17-3)

問い合わせ先

第35回全国トイレシンポジウム実行委員会事務局 (担当 寅太郎)

Mail: [sympo@j-toilet.com](mailto:sympo@j-toilet.com)

電話: 03-5805-3556 (設計事務所 Gondra) / 090-7010-5867 (寅携帯電話)

詳細は、9月発行の協会ニュース号外にてお知らせいたします。

## ◆ トイレ産業展 2019 に出展いたします

今年度も当協会として出展いたします。運営委員が常時対応しておりますので、ぜひお立ちよりください。チラシ及び招待券を後日お送りいたします。

日 時 2019年11月13日(水)～15日(金) 10:00～17:00

会 場 東京ビッグサイト 西展示棟

## ◆ 年会費納入のお願い

5月末までにお願ひしてございました年会費の納入がお済みでない方は、速やかに納入のお手続きをお願いいたします。

## ◆ Facebook 再開しまし [一般社団法人日本トイレ協会]

しばらくの間更新が止まっていた Facebook を再開しました。トイレに関する情報を発信しています。会員のみなさまからの情報提供をお待ちしています。

「 いいね！」をお願いします。

## ◆ メール配信確認のお願い

協会より会員のみなさま宛てに、事務局からのお知らせや各研究会の定例会・セミナー等のご案内、経産省からの情報などをメール配信させていただいておりますが、「そういったメールは届いていない」という方は、お手数ですが事務局までメールにてお知らせください。

(事務局メールアドレス [jimukyoku@j-toilet.com](mailto:jimukyoku@j-toilet.com))

---

## 運営委員会経過 (2019年5月～7月)

---

2019年度(第35期)第2回 運営委員会

5月13日(月)17:30～19:30 コマニー(株)東京事務所会議室

議題 (1) 新運営委員の選任について

(2) 2019年度定例総会について

(3) 2018年度監査報告

(4) 第35回全国トイレシンポジウムについて

(5) グッドトイレ推進運動について

(6) 今後の運営・組織について

(7) 台湾衛浴文化協会(TTA)メンバー訪日について

## 2019年度(第35期)第3回 運営委員会

6月3日(月)17:30~19:30 コマニー(株)東京事務所会議室

- 議題 (1) 経産省こどもデー参加について  
(2) 第35回全国トイレシンポジウムについて  
(3) グッドトイレ選奨について  
(4) トイレ産業展2019について  
(5) グッドトイレ推進運動について  
(6) 災害用トイレに関する組織の立ち上げについて

## 2019年度(第35期)第4回 運営委員会

7月1日(月)17:30~19:00 コマニー(株)東京事務所会議室

- 議題 (1) 経産省こどもデー参加について  
(2) 第35回全国トイレシンポジウムについて  
(3) グッドトイレ選奨・プレゼンテーションセッションについて  
(4) 自治体アンケートについて  
(5) 災害用トイレに関する組織の立ち上げについて  
(6) トイレ産業展2019について  
(7) 千葉県トイレクリーン講座について  
(8) 新メールアドレスについて

## 編集後記

今回の日本トイレ協会ニュースは、日本トイレ協会総会の模様が記載されています。当日、私は参加できませんでしたが、高橋郁氏の「全ての人に清潔な水と衛生環境(トイレ)を届けるために~NGO活動~」では、世界トイレ事情からSDGsとしての取り組みを講演され、お聞きできなかったのが本当に残念です。また、白倉運営委員から「世界トイレ協会(WTA)の活動に参加して」では、日本人女性初の個人会員となられ、今年の第6回リーダージョーラムでは「日本トイレ協会事情及び国際トイレ支援活動」を発表されています。白倉運営委員の今後の活躍に期待したいと思います。

今回の総会では、長年日本トイレ協会の事務局長を務めてこられた佐竹氏が退任されました。日本トイレ協会の発展、そして会員も募集に力を入れてこられ、多くの仲間が加わったことは皆さんご存知のことと思います。今後も日本トイレ協会を温かく見守っていただけたらと、本当にお疲れ様でした。後任の事務局長には寅氏が推挙され、皆さんと共に頑張っていきましょう。

(副会長 軍記伸一)

## 一般社団法人日本トイレ協会

JAPAN TOILET ASSOCIATION

〒112-0003 東京都文京区春日 1-5-3 春日タウンホーム 1F-A

Tel 03-5844-6123

Mail : [jimukyoku@j-toilet.com](mailto:jimukyoku@j-toilet.com) / URL: <https://j-toilet.com/>